佐倉市 教育センターだより Vol.9

平成18年5月31日発行／佐倉市教育センター／TEL.043(486)2400　http://www.city.sakura.lg.jp/kyoikucenter/index.htm

佐倉の力を合わせて子どもたちを育てる

所　長　大　野　尊　史

佐倉市教育センターも，調査研究と教育相談を主な業務としながら，開設４年目を迎えました。過去の調査を振り返ってみますと，佐倉市には，宝とも言える「教育資源」がたくさんあることがわかりました。それは，博物館や美術館などの施設のみならず，自然環境やたくさんの人材も含まれます。また，調査を通して多くの貴重なデータを得ることができました。

昨年度実施した，道徳意識調査から次のようなことがわかりました。夕食を家族と食べている子どもたちや，地域の行事や活動に参加したことがある子どもたちは，道徳的実践意欲が高い傾向があり，家庭や地域で充実した過ごし方をすることは，子どもたちの成長に大きな関わりがあるということが考えられます。一方，たくさんの子どもたちが，父親や母親，学校の先生から道徳的なことについて注意されている反面，２割近い子どもたちが，注意してくれる人はいないと答えています。また，平成１５年度に実施した「完全学校週５日制に関する調査」では，子どもたちは，ゆとりを感じ，部活や学習に取り組んでいる一方，テレビ視聴やゲームをする時間が多いなど，必ずしも有効的に活用しているわけではないこともわかります。

主として家庭での様子を述べましたが，よりよい子どもたちの成長を考えるとき，多くの場面での積極的な関わりが必要です。学校や公民館などと家庭あるいは地域社会が一層緊密に連携していくことが大切です。そのために，本年度は，子どもたちの学力と心や健康を中心に調査を進めるとともに家庭や地域社会の現状の把握にも努めていきたいと考えます。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

平成１８年度の主な年度計画

4月　教育相談開始
5月　教育課題検討委員会
　　佐倉市教育センターだより発行vol.9
6月　学習状況調査研究会
7月　市民道徳意識調査
8月　佐倉学カリキュラム開発研修会
9月　佐倉市教育センターだより発行vol.10
１０月　健康・体力に関する調査
　　基礎学力向上に関するモデル
　　プラン作成
１２月　学習状況調査（～２月）
1月　佐倉市教育センターだより発行vol.11
2月　佐倉市教育センター等発表会
3月　佐倉市教育センター紀要発行

道徳意識調査から見る家庭教育について

１　調査について

佐倉市内の児童生徒の道徳性の向上をめざすための資料を得ることを目的とし，平成17年11月14日から11月22日まで，市内小中学校各２校の小中学生，教員，保護者を対象に道徳に関する意識調査を行いました。

質問は，学習指導要領における道徳教育の目標を達成するために指導すべき内容項目の四つの視点から，中央教育審議会等で児童生徒の育成について重要な課題とされている内容にあてはまる観点をそれぞれ２つずつ取りあげ，計８つの観点について道徳的判断力，道徳的習慣，道徳的実践意欲・態度の点から作成しました。また，児童生徒の日常生活，地域社会との交流等の質問も取り入れ，道徳性との関連についても調べました。今回はその中から，特に家庭教育を中心に結果をまとめました。

２　主な結果から

(１)会話を通した家庭での道徳教育

道徳的な話題を８つあげ，家庭で話す頻度について尋ねました。「よく話す」「時々話す」と回答した児童生徒が多かった項目は，「やってよいことと悪いこと」(61.7%)，「社会のルールやマナーを守ること」(58.0%)でした。一方，回答が少ない項目は，「社会のために役に立つこと」（25.7%），「きれいな景色や自然のすばらしさについて」（34.2%）でした。また，家庭で道徳に関する話をよくしていると回答している児童生徒は，道徳性が高いという傾向が見られています。

(２)道徳的判断力に関する児童生徒，教員，保護者の意識の比較［グラフ1］

道徳的な行為ではないと思われる８つの項目について，好ましいか，好ましくないかを尋ね，道徳的判断力を見たところ，教員と保護者は全ての項目について90%近くが好ましくないと感じており，教員と保護者の意識がともに高く，傾向が一致していることがわかりました。一方，児童生徒は意識が分散しており，特に礼儀や感動・畏敬の項目では，好ましくないと感じている割合が50%を下回っています。中学生ではその傾向が高く，道徳的な判断力の育成が必要であると思われます。

(３)地域との関わりと児童生徒の道徳性の傾向［グラフ2］

地域の活動や行事に参加するなど地域と関わりのある児童生徒は，関わりのない児童生徒より道徳的習慣が身についているという傾向が見られました。道徳的判断力，道徳的実践意欲・態度についても同様の結果でした。地域の行事に参加するなど地域と関わることは，児童生徒が様々な面で発達していく上で効果が高いと思われます。また，地域の大人にとっても子どもたちとコミュニケーションをとるきっかけになります。学校や家庭で地域行事に参加するきっかけをつくり，コミュニケーションを深めていくことが望まれます。

(４)夕食を家族と食べている児童生徒と家庭での道徳に関する会話［グラフ3］

夕食を家族（親または祖父母）と食べている児童生徒は，夕食を自分一人または兄弟姉妹と食べている児童生徒より，家庭で道徳に関する話をよくしている傾向が見られています。また，道徳的判断力，道徳的習慣，道徳的実践意欲・態度についても，夕食を家族と食べている児童生徒は，自分一人または兄弟姉妹と食べている児童生徒より意識が高い傾向があることがわかりました。

(５)朝食の習慣と児童生徒の道徳性の傾向［グラフ4］

朝食の習慣が身についている児童生徒は，朝食の習慣が身についていない児童生徒より，道徳的実践意欲・態度が身についている傾向が見られました。また，道徳的判断力，道徳的習慣についても，同様の傾向が見られました。朝食の習慣が身についている児童生徒の方が，家庭での道徳に関する会話をよくしているという傾向も見られました。

(６)児童生徒の道徳的習慣と道徳的判断力

道徳的習慣が身についている児童生徒は，身についていない児童生徒より，道徳的な行為ではないと考えられる項目に対して「好ましくない」「あまり好ましくない」と回答している割合が高いという結果が見られました。このことから，児童生徒の道徳的習慣と道徳的判断力は

関係があると思われます。

３　まとめ

今回の結果から，児童生徒の道徳性の育成に関わる貴重な資料を得ることができました。その中から，家庭教育に関わる結果を以下の２点にまとめました。

(１)家庭，学校の役割

児童生徒の道徳性は，朝食の習慣，夕食を食べている相手と関係があることがわかりました。しかし，これは朝食の習慣を身に付ければ道徳性が育成できる，夕食を家族と食べれば児童生徒の道徳性は身につく，ということではありません。朝食の習慣，夕食を食べる相手については，生活習慣と児童生徒の道徳性，家族との触れ合いと児童生徒の道徳性の関係を見るために取り上げた一例です。各家庭で，子どもたちの生活習慣に意識し，家族と触れ合う場や時間を設け，心の交流を図ることは子どもたちの道徳性の育成につながると思われます。そのために，学校は相談機関等の情報の提供や収集などで家庭に協力することが大切です。

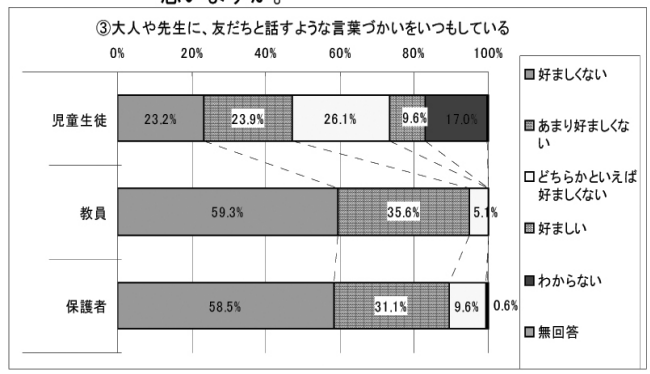
(２)学校，家庭，地域社会と連携した道徳教育の推進

調査結果から，家庭におけるコミュニケーションや地域社会との関わりが，児童生徒の道徳性に影響している傾向にあることがわかりました。このように道徳教育は，児童生徒の日常生活すべての機会や場面で行われることが望ましいと思われます。そのためには学校は，家庭，地域社会からの理解と協力を得られるよう学校の取組を理解してもらうだけでなく，家庭，地域社会の取組を理解し，支援することも大切です。児童生徒の道徳性を高めるための学校，家庭，地域社会の取組についての質問では，教育，保護者の意識が似た傾向にあるという結果がでています。学校と家庭が地域と連携していくための素地が整っていると思われます。教員と保護者で相互の意見を取り入れながら，地域社会と連携し，児童生徒の道徳性育成を進めたいものです。

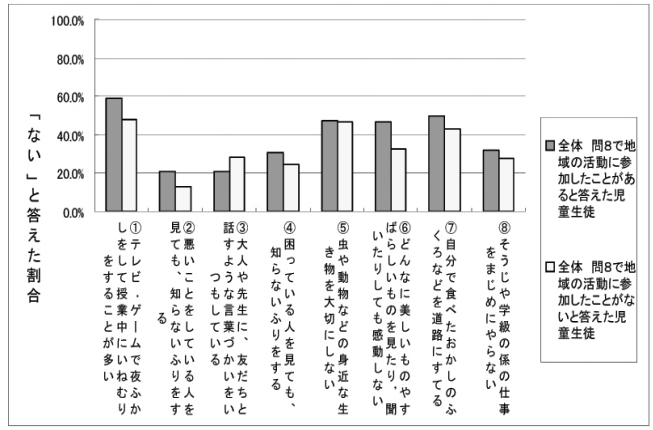
児童生徒の道徳性を育成し，さらに社会でそれを生かしていくことは時間がかかることです。しかし，学校や家庭の実態に応じ，それにふさわしい指導や関わりをしていくことは，着実に子どもたちに効果を及ぼすと思われます。今回の調査結果を，今後，学校や家庭で生かしていただければ幸いです。

（前林　典子）

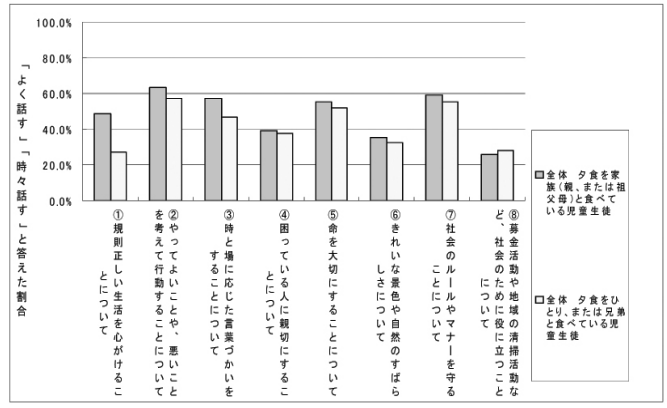
［グラフ１］　児童生徒が次のことをすることについて，どう思いますか。



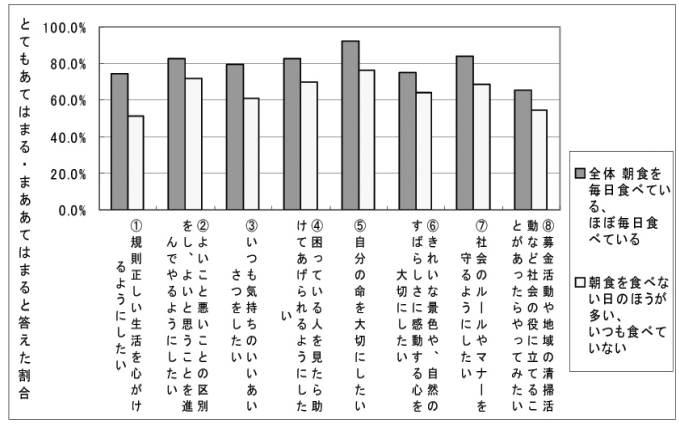
［グラフ２］　地域との関わりと児童生徒の道徳的習慣



［グラフ３］　夕食を家族（親または祖父母）と食べる児童生徒と家庭での道徳に関する会話



［グラフ４］　朝食をきちんととっている児童生徒は道徳的実践意識・態度が身についている



家庭教育の充実を　―教育電話相談室より―

社会の急激な変化と少子高齢化の時代を迎え，家庭教育を取り巻く環境も教育のあり方も変化しています。変化の激しい時代を生きぬく児童生徒の育成という観点から，バランスの取れた家庭教育が望まれます。

家庭教育の内容は，『①基本的な生活習慣の形成(食事，睡眠，排泄，着脱衣，清潔，健康，挨拶，礼儀などの躾)②言葉の獲得とその技能の促進③価値規範の伝達など，道徳性の形成（乳幼児期は善悪の区別，児童期は判断の尺度の発達，青年期は態度化）④適切な自己評価と他者に対する共感（思いやり），他者への対人行動と社会的技能の習得⑤家庭内の役割分担（手伝い）⑥金銭観と経済観念⑦職業に対する態度の形成⑧社会に対する見方や宗教的態度の形成』が考えられます。「千葉県教育委員会発行『家庭教育の手引き』より」

時代と共に家庭教育も変化していますが，学校と家庭や社会が連携・協力し，児童生徒のよりよい人間形成を目指した，成長と発達に即した的確な指導が大切です。

社会の価値観も多様化する中で，子育ての現状や抱えている問題も，家庭や子どもの発達段階によって様々です。相談室で小・中・高校生や保護者と接する中で，乳幼児期から小学生までの親子関係や過ごし方が，思春期まで，あるいは成人してからも影響していることを実感し，家庭教育の大切さを痛感しています。最近は，価値規範の伝達など道徳性の形成に課題があり，社会で許されない行為に対しての罪悪感が，薄れていく風潮が見られます。子どもたち一人ひとりが社会の規範を身につけ，自分で考え正しい判断をして行動できる人間に成長してほしいと願っています。

相談室では，相談者の思いを受け止め，どんな相談にも応じています。悩みを一人で抱え込まず，早期に相談してください。なお，教職員向けの相談は，教育センターで受けつけています。　（学校教育相談員　酒井　孝子）

【電話相談室】℡４８４－６６１１(佐倉市ヤングプラザ2階)
【教育センター】℡４８６－２４００(佐倉東小学校内)

基礎学力定着に向けて　―学習状況調査より―

平成17年度も市内各小・中学校にご協力いただき，学習状況調査の結果をまとめることができました。結果の分析と考察について，お知らせします。

１　国語，算数・数学に関する調査について

学習状況については，国語，算数ともに正答率は目標値の80%を達成しています。しかし，『国語や算数・数学の勉強が好き』と感じる児童生徒の割合は，学年が上がるにつれて低下する傾向がみられました(図１参照)。児童生徒の学習意欲を高めることが課題です。

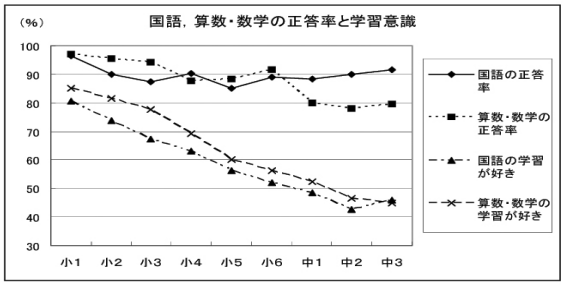


図１　国語，算数・数学の正答率と学習意識(学年別)

(1)国語

漢字の読みについては，小・中学校全ての学年で正答率が90%を超えており，よく理解できています。特に，中学校では全学年で，前年度より正答率が上昇しました。これは，ドリルタイムの設置等，学校全体での組織的な取組が進んだ成果だと考えます。

漢字の読みにおいて，さらに習熟を図っていく上で気をつける点としては，特別な読み方をする漢字について文脈から正しい意味をつかんで読めるようにすることが挙げられます。

漢字の書きについては，小学校１～３年生と，中学校１～３年生で正答率が85%を超えており，おおむねよく理解できています。特に，中学校では全学年で，前年度より正答率が上昇しました。これは，平成16年度に作成した「中学校の学年別配当漢字の範囲表」を活用して練習した成果だと考えます。

漢字の書きにおいて，さらに習熟を図っていく上で気をつける点としては，画数の多い漢字や送り仮名のある漢字について，正しい字形や送り仮名で書けるようにすることが挙げられます。

言葉のきまりについては，学年によって正答率にややばらつきがありました。国語辞典や漢字辞典については，正しい引き方に沿って引けるようになるまで，繰り返し練習することが必要です。また，敬語の使い方については，日常生活の中で正しい使い方ができるよう，児童生徒を取り巻く言語環境を整えていくことが重要です。

(2) 算数・数学

算数では，小学校全ての学年で正答率が85%を超えており，おおむねよく理解できています。特に，低学年では正答率が95%を超えていました。また，中学校では，全ての学年の正答率が前年度より向上し，目標値の80%に近づきました。

算数・数学全体では，学年が上がるにつれて正答率は低下する傾向があります。また，小学校６年生と中学校１年生の間に，正答率の差が見られます。

算数，数学ともに，基礎となる学習内容の確実な習熟を図ることが重要です。例えば，「繰り下がりのあるひき算」の理解が不十分だと，「わり算の筆算」の習熟に影響があります。学習内容の基礎となる事項については，当該学年だけでなく，確実に理解できるまで指導していく必要があります。また，算数と数学の学習内容や指導方法について，小・中学校間でより一層連携を図っていくことが望まれます。

２　学習意識に関する調査について

(1) 児童生徒の意識

「学校は好きか」「勉強は好きか」「読書は好きか」という質問に対し，「好き」「まあまあ好き」と回答した児童生徒の割合は，昨年度より上昇しました。しかし，学年が上がるにつれて意識が低下する傾向がみられます。特に，「勉強は好きか」という質問に対して，「好き」「まあまあ好き」と回答した児童生徒の割合は，学年が上がるにつれて大きく低下しています（図２参照）。

宿題については，「全部する」「だいたい全部する」と回答した児童生徒の割合は，小学校ではどの学年でも

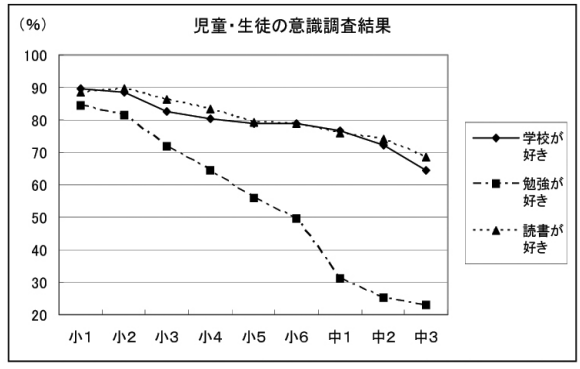


図2　児童・生徒の意識調査結果

80%以上ですが，中学校では学年が上がるにつれて低下し，３年生で約40%でした。また，「宿題以外に自分から進んで勉強するか」については，「毎日する」「だいたい毎日する」と回答した児童生徒の割合は，小学校３年生で約50%ですが，中学校２年生で約30%まで低下しています。学年が上がるにつれて，自ら積極的に勉強に取り組める子とそうではない子との二極化が進む傾向がみられます。自主的に家庭学習に取り組める，よりよい学習習慣を児童生徒に身につけさせるために，学校と家庭の協力が一層求められます。

(2) 教諭等の意識

児童生徒が確実に知識や技能を身につけられるよう，指導を工夫している割合は，「とてもしている」「おおむね工夫している」を合わせて約75%でした。主な工夫の内容は，「教材の工夫」「繰り返し指導」「個別指導」の順でした。また，他の教科等との関連性を考えて指導計画を作成している割合は，昨年度より上昇していますが，小学校で約65%，中学校で約30%でした。

また，児童生徒の学習状況について保護者に説明し，協力を得るようにしている割合は，「とてもしている」「おおむねしている」を合わせて約45%でした。さらに，小学校では約75%の教諭がほぼ毎日宿題を出していますが，中学校で宿題を出している割合は，約40%でした。一方，宿題以外に自主的に学習するように，具体的な手立てを講じて指導をしている割合については，小学校で約20%，中学校で約40%でした。

児童生徒の学習意欲を高め，基礎学力のさらなる向上を目指すために，学習状況の情報を学校と家庭が共有し，互いに連携を深めながら児童生徒の指導を進めていくことが望まれます。　　（西村　隆徳）

教育センター資料室のご案内

佐倉市教育センターには，佐倉市の学校教育や歴史に関する資料等を閲覧できる資料室があります。平成18年５月現在，830冊以上の蔵書と，教育関係の小冊子が保管されています。貴重な資料，書籍を寄贈してくださる方も多く，充実した資料室になりつつあります。特に国語作品集「ひざし」(印教研国語研究部発行)と，「千葉教育」(千葉県総合教育センター発行）は初版から全てそろっています。「ひざし」は，昭和23年の発行以来，昨年度発行の58号までの約60年間に渡る世相の移り変わりや，各時代の児童生徒の思いに触れることができる大変貴重な資料です。

資料はセンターでの閲覧が基本ですが，学校へ貸し出し可能な資料もあります。昨年度は，「佐倉学」の実践の資料，あるいは教材研究を目的とした小・中学校からの資料の貸し出し及び閲覧希望がありました。また，中学校の学習内容の調査のために高等学校からの資料の貸し出し希望もありました。教職員向けの資料が多いのですが，一般の方も閲覧することができます。お気軽に来所し，資料をご活用ください。　　（前林　典子）

分野	書　　名	備　　考
学校教育史等	佐倉市の教育史　史料編	発行　佐倉市教育委員会
	佐倉市の中学校	発行　佐倉市教育委員会
	佐倉市の小学校	発行　佐倉市教育委員会
	佐倉市の学校教育　各校編　全 35 冊	発行　佐倉市教育委員会
	学校教育別冊　明治教育と五人の教員	発行　佐倉市教育委員会
	学校教育別冊2　佐倉藩の教育	発行　佐倉市教育委員会
	学校教育別冊3　明治教育と佐倉地方の事実	発行　佐倉市教育委員会
	学校教育別冊4　佐倉地方の諸学校	発行　佐倉市教育委員会
	佐倉の教育　第1号～第 16 号	発行　佐倉市教育委員会
	千葉教育　S41～H18	発行　千葉県総合教育センター
	教育展望　1996 年～2006 年	発行　財)教育調査研究所
	教育学講座　1巻～22 巻	発行　学習研究社
	千葉市教育史　全 7 冊	発行　千葉市教育委員会
	学校教育研究実践発表記録 S63～H14	発行　佐倉市教育委員会
	佐倉市教職員実践発表大会記録 H16,H17	
	千葉県長期研修生研究報告書 H7～H17	
国語	ひざし　1 号～58 号	発行　印教研国語研究部
	市民読書感想文集「さくらおぐるま」 1 号～37 号	発行　佐倉市立佐倉南図書館　他
	うすい　1 号～21 号	発行　臼井文化懇話会
	佐倉市在住･近在の方の自主出版本 95 冊	
社会	佐倉市郷土の先覚者　24 冊	発行　佐倉市教育委員会
	わたしたちの佐倉市　S45～H18,19 年度用	発行　佐倉市教育委員会
	佐倉市史　全 4 冊	編集　佐倉市史編纂委員会
	佐倉市史研究　第 2 号～第 19 号	編集　佐倉市総務部行政管理課市史編纂担当他
	ふるさと歴史読本　1～5	編集　佐倉市総務部行政管理課市史編纂担当他
	古今佐倉真佐子	編集　佐倉市市史編纂委員会
	中学校社会科教育実践講座第 1 巻～第 21 巻	編集　中学校社会科教育実践講座刊行会
	世界の地理教科書シリーズ	発行　帝国書院
	世界の歴史教科書シリーズ	発行　帝国書院
	佐倉市細見　37 冊	発行　佐倉市教育委員会文化課
	写真に見る佐倉　41 冊	発行　行政管理課市史編纂担当
教科書等	教科書　各種	
	指導書　各種	
社会教育	佐倉市中央公民館のあゆみ　1971～1975	発行　佐倉市中央公民館
	佐倉市中央公民館のまとめ　S53～H16	発行　佐倉市中央公民館

■編集後記■

新年度が始まって2か月が過ぎました。進級，入学等で環境が変わった子どもたちも，ようやく新しい生活に慣れ始めたことと思います。今回のセンターだよりは，学校，家庭における子どもたちとの関わりに焦点をあててみました。子どもたちを支えていくヒントとして役立てていただければ幸いです。

平成17年度末の人事異動に伴い，沼田正信指導主事に変わり沖永寛指導主事が着任しました。今年度も佐倉市教育センターへのご指導，ご鞭撻をよろしくお願いいたします。　　（前林　典子）